

# 宮澤賢治ジオツアー

岩 松 暉<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

地質やジオと言われてもすぐ理解できる人は残念ながら少ない。布地の地質と勘違いする人さえいるのが実情である。何とかジオをエコ同様、日本語になるくらいに普及させたいものだ。一方、宮澤賢治のことは日本人なら誰でも知っている。そこで地質情報整備・活用機構では、彼が地質学者であったことと結びつけて宮澤賢治ジオツアーを企画し、「地質の日」協賛事業にしようと考えた。幸い直前に産総研の加藤碩一氏が『宮澤賢治の地的世界』という本を上梓された。宮澤賢治のネームバリューと『地的世界』の著者ご自身による案内という二つを売りにしたのである。そのためか朝日新聞が興味を持ち記事にしてください。加藤氏は産総研のトップとして地質の日当日はご多忙だろうからと、翌週の5月17～18日に標記ジオツアーを実施することとした。参加を募ったところ、産総研地質標本館長の青木正博氏からの申し込みもあったので、青木氏には、参加者の土産になるような岩石標本をご準備いただいた。

## 2. 第一日目

当日昼、新花巻駅前のセロ弾きのゴーシュ像前で集合したのは総勢28名、半数が女性だった。案内者など地質関係者が1/3、賢治ファンが2/3という構成であった。朝日新聞の記事を読んで参加された方が半数近くおり、遠く北九州からのご参加もあった。メディアの威力を実感した次第である。

まずレストハウス山猫軒で食事をし、宮澤賢治記念館を見学した。記念館では自筆原稿や愛用のチェロが目を引いた。もちろん、鉱物や岩石の標本も展示されていた。見学後、ポランの広場を経由してイーハートブ館まで散策したが、ちょうど新緑の季節、見事さに皆感嘆していた。その後、バスでイギリス海岸に行



第1図 イギリス海岸。

った(第1図)。有名なイギリス海岸は、ダムが出来たため、作品にあるように賢治が生徒たちと遊んだ広い河床は露出してない。それでも木材化石が入っている露頭は残っていた。加藤氏が準備された分厚い資料を見ながら、ご本人の賢治に惚れ込んだ名解説に聞き入った。次いで、花巻農業高校に移築された羅須地人協会を訪れた。建物内部には入れなかったが、外からはよく見えた。古いオルガンと木の椅子が数脚あり、賢治が農民たちと語り歌った当時の様子が彷彿とする。最後に、羅須地人協会が元々あったところに建てられた高村光太郎揮毫による「雨ニモ負ケズ詩碑」を見学した(ちなみに石材は三疊系稲井スレート)。賢治の手になる「下の畑ニ居リマス」という黒板の写真が有名だが、ここへ来て、協会が河岸段丘の上にあることを知り、下の畑の意味がよくわかった。参加者には賢治ファンが多かったので、「ぎんどろ」とはウラジロハコヤナギのことで、詩碑のところにある大木がそれだ、などお互いに教えあったりして、和やかだった。

花巻温泉に浸かり豪華な夕食をとった後、「宮澤賢治の夕べ」を開いた。宮澤賢治記念館副館長の牛嶋

キーワード: 宮澤賢治, ジオツアー, 花巻

1) 特定非営利活動法人 地質情報整備・活用機構

113-0033 東京都文京区本郷3-26-1



第2図 宮澤賢治の夕べで熱演する牛崎氏。

敏哉氏による詩の朗読があった(第2図)。朗読というよりも熱のこもった一人芝居の感があり、大変好評だった。次いで、案内者の加藤氏による講演があり、賢治の色は青で、さまざまな青色の鉱物が出てくること、夕陽の黄色と朝日の黄色では鉱物を使い分けているといった話がとても新鮮だった。

### 3. 第二日目

2日目は花巻温泉の釜淵の滝を見学した。ここで地質標本館長青木正博氏から安山岩のプレゼントがあった(第3図)。華厳の滝の裏側に掘った縦坑から採取したもので一般人には絶対採れない貴重なものとの説明に、皆珍しそうにわれがちに殺到した。その他、要所要所でその場に関する岩石鉱物(流紋岩や玉随ぎよくずいなど)のプレゼントがあり、その解説が大変面白く、非常に好評だった。もちろん、一番人気が高かったのはメノウである。次いで賢治の愛した南昌山の



第3図 標本の説明をする青木氏。



第4図 釜淵の滝で解説する加藤氏。

火山岩類を見て釜淵の滝を見学した(第4図)。その後、繋温泉・御所湖を経由して小岩井農場に行った。ここは有名な『春と修羅』に詠み込まれている。天候にも恵まれ岩手山がきれいに見えた。先ず展示資料館で賢治関係の展示を見た後、観光牧場のほうで昼食を摂った。昼食後は、賢治が中学時代によく通ったという鬼越おにこりの道を通って岩手大学に行き、農業教育資料館(旧盛岡高等農林学校本館)を見学した。賢治が採集した岩石のサンプルや当時の顕微鏡などが陳列しており、皆興味深そうであった。ジオツアーの最後は、賢治や啄木が良く来たという盛岡城跡公園(岩手公園)である。花崗岩の露頭が一部石垣ひるいし代わりに使われていた。賢治が「公園の円き岩べに蛭石をわれらひろへばぼんやりぬくし」と唱ったところである。中学1年生の頃の作品という。中学生で蛭石を知っていたとは、と皆ビックリした。

### 4. おわりに

最後に、参加者アンケートをとったが、大満足との声が圧倒的で、次は石見銀山をといった注文まであった。加藤氏の準備してくださった丁寧な解説資料と青木氏の標本プレゼント、牛崎氏の熱演がとくに好評だった。

上記3氏と旅行全般を取り仕切っていただいたジオプランニング立澤富朗氏に感謝する次第である。

総じて地質の日の企画としては成功だったと自己評価している。

IWAMATSU Akira (2009) : Geotour of Kenji MIYAZAWA's sites.

<受付:2008年11月3日>